

平成24年11月

株主通信

YBHD NEWS No.32



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911



取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、株主通信「YBHD NEWS」第32号をお届けし、第149期上半期(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)の事業の概況につきまして、別記のとおりご報告申し上げます。

当上半期のわが国経済は、東日本大震災の復興需要などを背景とする回復の兆しが見られましたものの、欧州債務問題の再燃による世界的な金融不安や円高の長期化などにより、依然として先行きが不透明な状況が続いており、下振れの懸念も生じております。

建設業界におきましても、受注競争が一段と激化するなど、総じて厳しい状況が続いております。

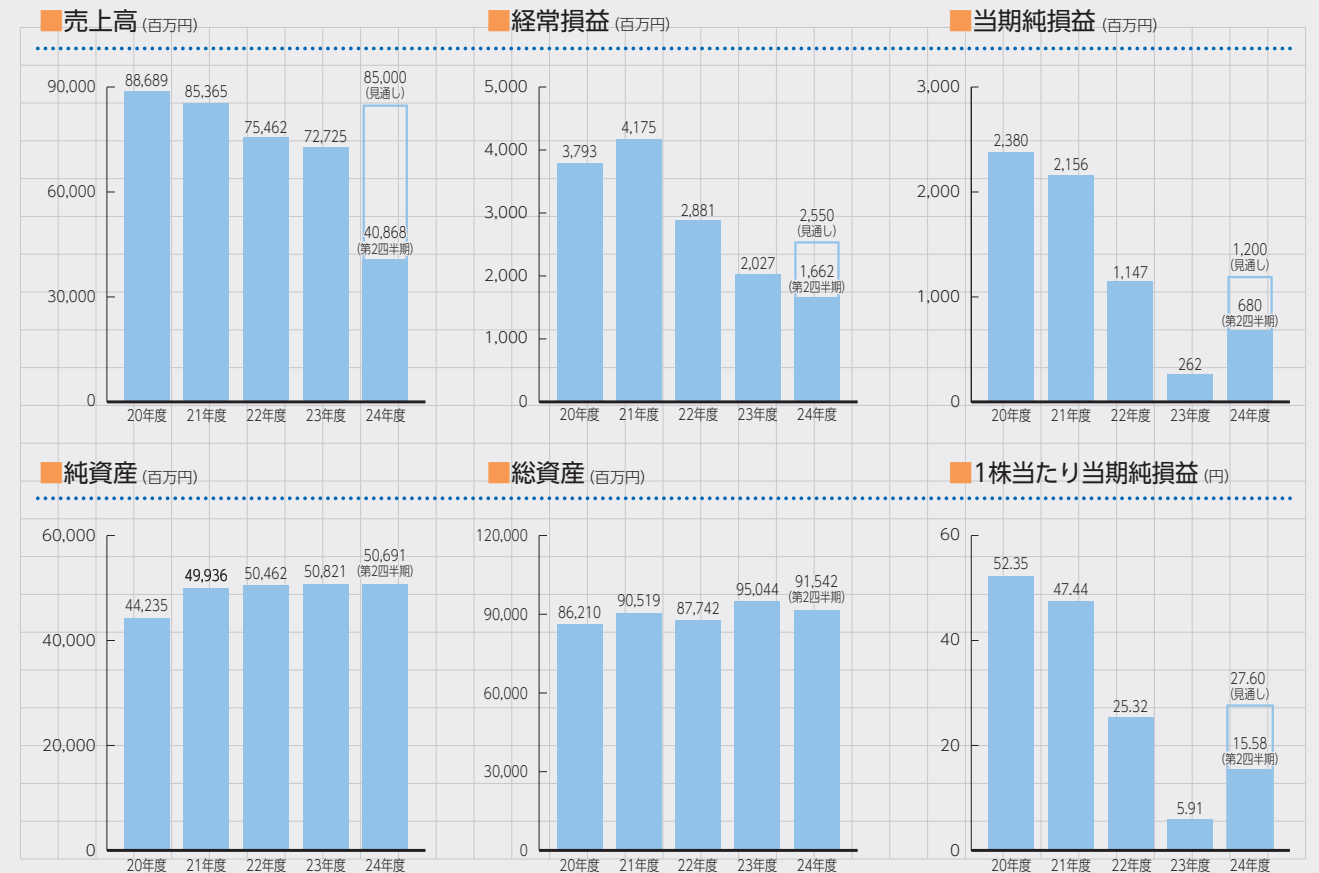
このような環境下にあります、当社グループの業績は後ほど申し上げる結果となりました。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つと認識し、業績・配当性向などを総合的に勘案のうえ安定した配当をすることを基本方針としております。当期の中間配当金につきましては、1株につき4円50銭とさせていただき旨10月29日開催の取締役会で決議いたしました。期末配当と合わせた年間配当金は9円とさせていただき予定しております。

当社グループを取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年11月

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (第2四半期)
売上高	(百万円)	88,689	85,365	75,462	72,725	40,868
経常損益	(百万円)	3,793	4,175	2,881	2,027	1,662
当期純損益	(百万円)	2,380	2,156	1,147	262	680



当社グループの第2四半期の業績につきましては、受注高は319億4千万円(前年同期307億7千万円)売上高は408億6千万円(同327億2千万円)四半期純利益は6億8千万円(同2億5千万円)となりました。各事業別の状況は次の通りです。

1 橋梁事業

受注高は217億円(前年同期比6億6千万円減)、売上高は311億円(同64億2千万円増)となりました。受注高につきましては、上期までの国内橋梁の発注状況は、前年同期を若干上回った程度と思われませんが、内訳は大きく違い、国土交通省と地方自治体からの発注量は前年同期の半分近くまで減少しており、高速道路会社からの発注量が大幅に増加しております。

売上高は手持ち工事の進捗により増加いたしました。また原価管理の徹底などにより第1四半期に落ち込んだ利益率を改善することができましたため、セグメント利益も13億8千万円(同2億3千万円増)と増加いたしました。しかしながら保全工事を中心に損益が悪化傾向にある工事も幾つかありますので、それらの一つ一つの工事について対策を講じ、さらなる損益の改善を図ってまいります。

2 建築環境事業

受注高は97億5千万円(前年同期比18億2千万円増)、売上高は87億1千万円(同22億5千万円増)となりました。

受注高・売上高につきましては、好調なシステム建築事

業が大きく寄与いたしました。

その結果として、セグメント利益は前年同期1千万円に対し6億円(同5億8千万円増)と大幅な増収増益となりました。システム建築事業は高品質と短工期により一定の水準以上の量を継続して受注しており、そのため安定した高い稼働率を実現したことで生産効率が向上いたしました。今後の受注につきましては、世界経済の減速と海外への生産移転による設備投資の減少が懸念されますが、ビルダー網の活用あるいは販路の拡大などにより受注量の確保に努めてまいります。

3 先端技術事業

受注高は4億8千万円(前年同期比3百万円増)、売上高は5億8千万円(同5億2千万円減)となりました。売上高は受注の減少により前年より半減し、受注高は停滞が続き前年並みとなりました。その結果として、セグメント利益は1億1千万円の損失(前年同期は3千万円の利益)となりました。低迷が続いておりました液晶パネル製造装置関連の需要につきましては、下期に入りまして回復の兆しが見えてまいりましたので、通期での赤字を回避すべく、受注の確保に注力してまいります。

4 不動産事業

不動産事業の売上高は4億6千万円(前年同期比7百万円減)でした。

今後の見通し

橋梁事業につきましては、当面の発注増が見込めない中、受注競争はさらに激化すると予想されますので、受注量を確保するためには下期の新規受注に伴う工事損失引当金の計上を想定せざるを得ないところであります。また建築環境事業につきましても景況感が悪化傾向にあることから、下期の利益は上期の利益よりも減少すると考えております。

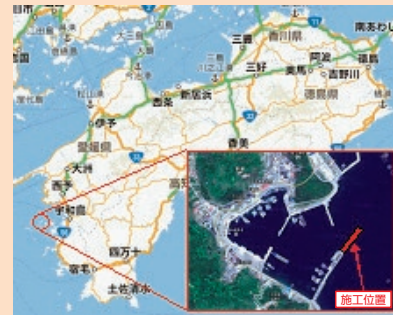
以上のことから、通期の営業利益、経常利益、当期純利益は第2四半期累計期間と同様に当初予想より増益となりますものの、増益幅は若干縮小するものと予想しており、通期連結業績は売上高850億円、営業利益25億円、経常利益25億5千万円、当期純利益12億円と予想しております。

海洋構造物への挑戦

株式会社横河ブリッジから、愛媛県より水産生産基盤整備事業として発注になりました防波堤施設「ハイブリッドケーソンの鋼殻製作」についてご紹介いたします。ケーソンとは、フランス語で“大きな箱”という意味で、防波堤や岸壁、護岸といった港湾施設に欠かせないもので、鉄筋コンクリートの巨大な箱型構造物が従来の形式でした。中は形状を保持する為の壁があるだけで、ほとんどが空洞になっており、設置地点までクレーン船および台船で輸送し、所定位置に設置後、空洞部分に砕石などの中詰め材を投入し、上部にコンクリートで蓋をして完成となります。

今回製作のハイブリッドケーソンは、鋼部材と鉄筋コンクリートを強固に一体化し、鋼とコンクリートの合成構造（ハイブリッド）の利点を活かして、経済性（高強度、軽量化、高耐久性）、施工性（型枠、支保工の省力化、工期短縮）に優れたケーソンとなっております。横河ブリッジ大阪工場で作成した鋼殻（鋼部材）幅19.2m、奥行き16.0m、高さ22.3mの2函をフローティングクレーンで吊り上げ台船上に固定後、愛媛県のコンクリート打設ヤードまで海上輸送し、工事完了となりました。

鋼橋の総発注量が減少する中、橋梁で培った技術を応用し、海洋構造物の製作へも裾野を広げることで、更なる受注獲得へ努力してまいります。



製作状況



台船積み込み状況

可動式システム建築の施工について

株式会社横河システム建築が、同社製品であるシステム建築「yess建築」と可動構造システム「YMAシステム」を組み合わせた可動式の建屋を施工しましたのでご紹介いたします。

本施設は新造船の鋼製構造物の塗装ヤード建屋として活用されております。塗装ヤードは埠頭岸壁に隣接し、船で輸送されてきた船体構造物が直接搬入され、その場で塗装作業が行われます。建屋が移動できることで天候に左右されることなく塗装作業が可能となり、さらに、塗装完了まで製品を移動することなくそのまま船積・輸送する拠点となりました。

本施設は、建屋構造体ならびに屋根・外壁材をyess建築標準仕様とし、足元にYMAシステムの駆動装置を組み込み、全長100mのレール上を分速6mで走行させることが出来ます。yess建築の特長である「軽量・低価格・短工期」に加え、「可動するシステム建築」として、今後、新たな市場の開拓が期待できる第一歩となった施設です。

施設概要 施 工 地：佐賀県唐津市唐津港妙見埠頭

施 主：松浦通運株式会社様

施 工：唐津土建工業株式会社様

建 物 規 模：幅28m×長さ44.9m×軒高さ6m

最大開口長：50m



建屋全景



建屋内観



全開状況

連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成24年9月30日現在	前 期 末 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	55,292	58,197
現金預金	8,558	10,113
受取手形・完成工事未収入金等	39,339	37,096
有価証券	1,704	5,209
たな卸資産	1,119	1,469
その他	4,612	4,352
貸倒引当金	△ 42	△ 42
固定資産	36,250	36,846
有形固定資産	21,159	21,316
土地	12,131	12,131
その他(純額)	9,027	9,185
無形固定資産	970	979
投資その他の資産	14,120	14,549
投資有価証券	9,896	10,444
その他	4,273	4,166
貸倒引当金	△ 50	△ 61
資産合計	91,542	95,044

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	当第2四半期 連結会計期間末 平成24年9月30日現在	前 期 末 平成24年3月31日現在
負債の部		
流動負債	30,983	29,133
支払手形・工事未払金等	16,054	15,651
1年内返済予定の長期借入金	5,000	1,000
未払法人税等	832	1,086
未成工事受入金	2,356	3,747
工事損失引当金	3,861	4,248
賞与引当金	1,607	1,697
その他の引当金	98	113
その他	1,172	1,587
固定負債	9,867	15,089
長期借入金	1,723	6,723
退職給付引当金	7,004	6,845
役員退職慰労引当金	525	849
その他	614	671
負債合計	40,850	44,223
純資産の部		
株主資本	52,443	52,265
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,088	10,088
利益剰余金	34,186	33,702
自己株式	△ 1,267	△ 961
その他の包括利益累計額	△ 2,423	△ 2,048
その他有価証券評価差額金	△ 94	281
土地再評価差額金	△ 2,329	△ 2,329
少数株主持分	671	603
純資産合計	50,691	50,821
負債純資産合計	91,542	95,044

(単位:百万円)

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	40,868	32,721
売上原価	35,954	28,422
売上総利益	4,914	4,298
販売費及び一般管理費	3,271	3,411
営業利益	1,642	886
営業外収益	193	232
営業外費用	173	163
経常利益	1,662	955
特別利益	19	4
特別損失	279	63
税金等調整前四半期純利益	1,402	895
法人税等	654	565
少数株主損益調整前四半期純利益	747	330
少数株主利益	67	76
四半期純利益	680	254

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 2,738	6,985
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,048	△ 5,627
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,502	1,264
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 17	△ 16
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 5,306	2,605
現金及び現金同等物の 期首残高	13,085	11,359
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,778	13,964

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式情報 (平成24年9月30日現在)

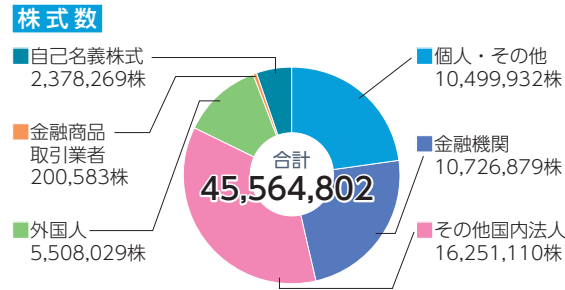
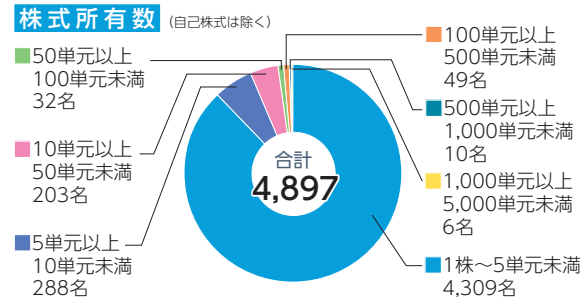
株式の状況

発行可能株式総数..... 180,000,000株
 発行済株式総数..... 45,564,802株
 株主数..... 4,898名

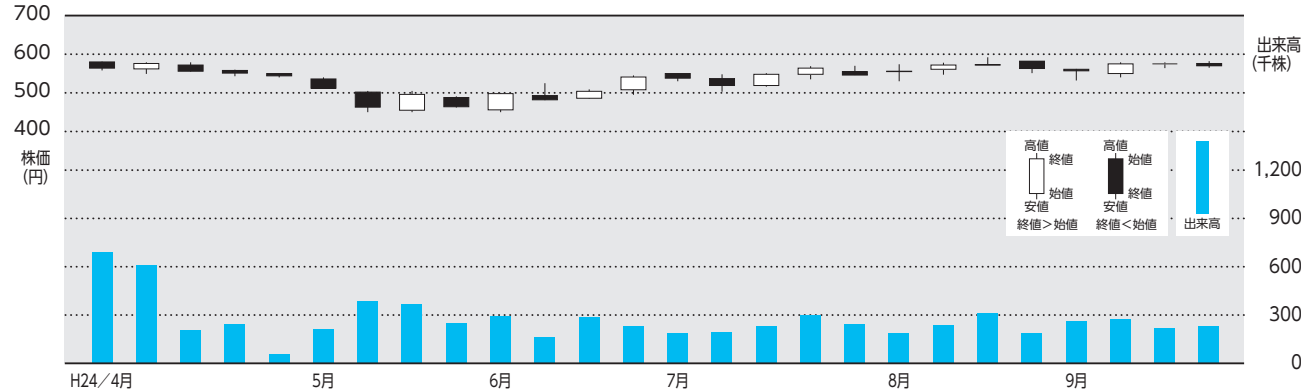
大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
横河電機株式会社	2,793,691	6.13
自己株式	2,378,269	5.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,348,000	5.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,142,000	4.70
新日鐵住金株式会社	1,987,303	4.36
CGML-IPB CUSTOMER COLLATERAL ACCOUNT	1,230,000	2.69
瀧上工業株式会社	1,140,000	2.50
株式会社みずほコーポレート銀行	890,612	1.95
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	710,000	1.55
日本生命保険相互会社	678,839	1.48

株式分布状況



株価および出来高の推移



会社概要

会社概要

社名 株式会社横河ブリッジホールディングス
 所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
 TEL:03-3453-4111(代表)
 資本金 9,435百万円
 主な機能 経営戦略、法務・監査、経理・財務
 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

YBHDグループ

- 株式会社 横河ブリッジホールディングス**
グループ全体の経営管理
- 株式会社 横河ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造
- 横河工事株式会社**
土木・建築・保全
- 株式会社 横河システム建築**
システム建築・開閉式建築システム・環境
- 株式会社 横河住金ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・セグメント
- 株式会社 榎崎製作所**
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品
- 株式会社 横河技術情報**
情報処理サービス・ソフトウェア開発
- 株式会社 横河ニューライフ**
不動産管理・情報システム・人材派遣
- 株式会社 ワイシーイー**
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

役員一覧 (平成24年9月30日現在)

代表取締役社長 吉田 明
 代表取締役専務 名取 暢
 取締役 藤井 久司
 取締役 上原 修
 取締役 猪岡 修治
 取締役 小川 克美
 取締役 高田 和彦
 常勤監査役 北爪 恒平
 常勤監査役 深沢 誠
 監査役 志々目 昌史 (社外監査役)
 監査役 八木 和則 (社外監査役)
 監査役 西山 重良 (社外監査役)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

株主の皆さまの声を聞かせてください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせていただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 5911

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjw.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

『復興特別所得税』についてのご案内

平成23年12月2日に「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法(平成23年法律第117号)」が公布されました。これに伴い、所得税全体を対象として、平成25年1月から平成49年12月までの25年間、基準所得税額に対し2.1%の『復興特別所得税』が課税されることとなりますので、ご案内申し上げます。

なお、上場株式等の配当等に関する具体的な税率は、右表をご参照願います。

復興特別所得税を加算した 上場株式等の配当等に係る税金

		～平成24年 【現在】	平成25年 25年間基準所得税額に対し、 2.1%の付加税が上乗せされます	平成26年～平成49年	平成50年～
上場株式等の配当等に係る 税金と税率	所得税	7%	7.147%	15.315%	15%
	住民税	3%	3%	5%	5%
合計		10% 【軽減税率】	10.147% 【軽減税率】	20.315%	20%

平成25年1月以降の所得税率の計算方法
 平成25年1月～平成25年12月 ⇒ 7% + 7% × 2.1% = 7.147%
 平成26年1月～平成49年12月 ⇒ 15% + 15% × 2.1% = 15.315%

※上記税率は源泉徴収が行われる場合の税率です。なお、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
 ※発行済株式の総数等の3%以上に相当する数または金額の株式等を有する個人の大口株主様につきましては、別の税率となりますので、ご注意ください。
 ※以上より、平成25年1月1日以降にお受け取りになる配当金計算書等について、所得税に関する表記が変更になる予定です。
 ※詳細につきましては、所轄の税務署にお問い合わせください。

※表紙の写真は戸島ハイブリッドケーソン製作状況(横河ブリッジ大阪工場)、形状は幅19.2m、奥行き16.0m、高さ22.3m。
防波堤として愛媛県宇和島市戸島本浦漁港に施工。



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表)

<http://www.ybhd.co.jp/>

